各団体活動状況

第一〇〇回定期演奏会と習志野文化ホール

習志野フィルハーモニー管弦楽団　団長　山口　憲次

五十年位前の津田沼駅南口周辺には一面ネギ畑が広がっていました。その中にポツンとあった木造二階建ての習志野一中の旧校舎で、習志野フィルハーモニー管弦楽団は初めて練習を始めました。（その場所は現在習志野文化ホールが建っている場所であります）それから五十三年目にして第一〇〇回の定期演奏会の開催となりましたが、奇しくも第十七回からこれまで行ってきた習志野文化ホールでの演奏会の最後となってしまいました。

第一〇〇回記念定期演奏会は、節目の演奏会で何度か指揮していただいた井崎正浩先生をお招きし、ビゼーの「アルルの女」第一・第二組曲とベルリオーズの「幻想交響曲」を演奏いたしました。この二曲は恋物語（失恋）をテーマにして作曲されましたが、話の内容を知らなくても曲は聴いたことが有るという方が多かったようです。「話の内容が分かり楽しく聴けた。とても感動した。ダイナミックで美しい演奏だった。変化に富んだドキドキ感のある演奏だった。熱気ムンムンで楽しめる演奏だった。迫力が有り元気の出る演奏だった。」と、大変好評でした。練習時、先生からは「お客様に楽しんでもらうことを第一に考え、心揺さぶる音を出そう、そしてその音を会場に飛ばすように演奏しよう」とアドバイスいただき、本番での素晴らしい指揮に乗ってその成果を十分に発揮する演奏が出来ました。

習志野市華道協会創立六十五周年を迎えて

習志野市華道協会　小林　理裕

昭和三十三年創立の習志野市華道協会は、本年六十五周年を迎えました。第一回華道展は、習志野高校の体育館で開催し、その後は各公民館で開催。京成谷津遊園地で野外華道展を開催したこともありました。いずれの会場でも会員の工夫と協力で素晴らしい華道展であったと先輩よりお聞きし、そのご苦労が今日の活動に繋がっていると思い、胸が熱くなるのを覚えました。

コロナ過で中断がありましたが、昭和五十三年から本年まで四十四年間、習志野文化ホール・ホワイエの素晴らしい会場で、華道展を開催できましたことは、何よりもの喜びでした。

その文化ホールが改築のため長期休館することになり、大変淋しく思っております。これまでの長い歴史と思い出に心から感謝をこめて、文化祭の折、関係者で「感謝の花」を飾りました。

今から三十年前、聚華書道会からのお声かけもあり、日本の伝統文化である書道と華道の組み合わせの素晴らしさを活かして「書と花の交流展」がスタートしました。五年毎の周年行事として開催。本年「華道協会創立六十五周年記念華道展」第六回「書と花の交流展」として皆様にご高覧いただきました。書と花の道をお互いに高め合い心が一つになってつくり上げた日本の伝統文化の美しさを表現できたのではないかと思っています。

この伝統文化の美しさを次世代に継承していく「伝統文化親子教室事業」として「習志野市いけ花教室」を文化庁の委託を受けて開催して十九年目になります。幼い頃から伝統文化について学び、日本の良さを身につけ、誇りをもって世界に羽ばたいていってほしいと願っています。

また、地域の方々にお花のある生活を楽しんでいただきたいと飾花活動を行っています。

現在、市役所社会教育課のカウンターと習志野文化ホールロビーに会員が交代で飾花し、地域の方々の憩いの場となれればと願っております。これから七十周年を目ざし、地域文化の向上に少しでもお役に立てるよう会員一同努力して参りたいと存じます。

私たちは習志野市当局、習志野文化ホール、芸術文化協会を始めとした関係各位のご協力やご援助を頂きここまで活動を続けて参りました。これから数年間は習志野市から離れた会場で演奏会を行いますが、常に習志野市を念頭に置いて活動をして行きます。習志野市は音楽の街、その街を代表するオーケストラであることを自負し、他地域においても音楽の楽しさを広めながら再び新習志野文化ホールに帰りたいと思っています。今後も皆様の応援をよろしくお願いいたします。

第三十回市展　開催

習志野市美術会　杉田　英男

市展は会場をモリシアオフィス棟四階で、主催習志野市美術会、共催　習志野市芸術文化協会、後援　習志野市教育委員会・（公財）習志野文化ホール、協力モリシア、のお力添えを頂き開催されております。市展を立ち上げて下さった先生方の苦労も大変だったと思います。お陰様で第三十回展を迎える事ができます。

出展は美術会会員と一般公募、高校生です。

会期は一期と二期に分かれていて一期は日本画と洋画九月十四日(木)～十七日(日)迄二期は彫刻、工芸、書、写真　九月二十一日（木）～二十四日（日）迄です。

高校生の作品は感性豊かな作品が多く目を奪われます。若いっていいなぁ…

又、作品解説が各先生方により行われます。此れからの作品の見かたが変わるかも。前回はコロナの関係で作品解説が見送られ残念でした。

年を重ねて退会する方達が増える中、中学生では美術部の生徒さんが沢山いると聞きました。嬉しいかぎりです。市展で会えるのを楽しみにしています。

授賞式は十月一日（日）十一時～十二時、会場　習志野市庁舎三階会議室で行われます。明るい部屋でスライドを交えてお祝いしたいです。

残念ながら昨年同様、市庁舎利用の為に授賞式後の懇談会はできません。

第三十回記念美術展覧会受賞者展を、十月三十一日（火）～十一月二日（木）迄市庁舎一階展示スペース他で開催します。沢山の方に見て頂き習志野市の文化芸術を身近に感じて頂ければ幸いです。

現習志野文化ホールの習志野第九演奏会最後

NPO法人習志野第九合唱団　理事長　川谷　聡

昭和五十三年末、習志野文化ホール開館記念公演として習志野第九演奏会が開催されてから四十四年。コロナ禍による令和二年度の中止を除き、毎年演奏会を続けてきましたが、昨年十二月十八日が、発祥の地である現ホールでの最後の演奏会となりました。

今回もコロナ禍での舞台上の密を避けるため人数制限が必要でしたが、最後の公演にふさわしい舞台にしようと、合唱団員募集時に合唱団始まって以来のヴォイスチェックを実施して百二十名を選抜し、合唱の質の向上に努めました。独唱者も可能な範囲で地元出身の方々にお願いしました。「ありがとう　習志野文化ホール」と掲げた最後の演奏会では、ベートヴェンの「第九交響曲」に先立ち、第九交響曲作曲の原点といわれる「合唱幻想曲」を演奏し、アンコール曲として現ホールへの感謝を込めて「習志野市歌」を合唱しました。

演奏会は冒頭のピアノ演奏から緊張感あふれる素晴らしい演奏が展開され、研ぎ澄まされた千葉交響楽団の演奏と、さらに力強い合唱が加わり、緊張感が会場の聴衆とともに最後まで続く、渾身の素晴らしい演奏会となりました。演奏者もお客様も、それぞれに文化ホールへの想いを胸にし、現ホールでの習志野第九演奏会は終了しました。

現ホールでの演奏会は終りましたが「音楽のまち習志野」の灯を消さないよう、そして新しい習志野文化ホールで、再び習志野第九演奏会でお客様をお迎えできるよう、次回からは他市での開催とはなりますが、習志野第九演奏会は今後も続けて行く所存です。

とはいえ不安も沢山あります。習志野市を離れて合唱団員は集まるのだろうか、お客様に来ていただけるのだろうか。使い勝手の分からない会場で滞りなく演奏会が進行できるのだろうか、何よりも経営が成り立ち継続できるのだろうか。合唱団結成以来最大の困難な局面に立っていますが、関係者のお力を借りながら、新習志野文化ホールが開館するまでなんとか乗り切って行きたいと思います。